

2019年3月期
決算説明資料

2019年5月23日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1. 2019年3月期決算
2. 2020年3月期業績見通し
3. 当社事業の特徴・強みと戦略
4. 環境経営への取り組み



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2019年3月期決算



株式会社 帝国電機製作所

2019年3月期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

- 国内市場での設備更新及びメンテナンス需要、中国を中心としたアジア市場での新規設備投資需要を取り込み増収だが、中国修理子会社の不適切な取引に係る費用計上等により減益。

(百万円)	2018年3月期	構成比 (%)	2019年3月期	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	20,789	100	22,264	100	+1,475	+7.1
売上原価	12,299	59.2	13,135	59.0	+836	+6.8
売上総利益	8,489	40.8	9,129	41.0	+639	+7.5
販売費及び一般管理費	6,189	29.8	7,103	31.9	+914	+14.8
営業利益	2,300	11.1	2,025	9.1	▲275	▲12.0
経常利益	2,341	11.3	2,225	10.0	▲115	▲4.9
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,496	7.2	1,016	4.6	▲479	▲32.1

主力のポンプ事業は好調。中国子会社関連の費用計上等で減益

売上高

ポンプ事業は、国内・アジアを中心に増収

売上総利益

ポンプ事業の売上増加、採算改善により増益

営業利益

ポンプ事業における中国の修理子会社3社の不適切な取引により発生した追加納付税額、過年度の追加納付税額に対する延滞税・加算税、及び本件の調査費用計上により前期比▲12.0%の減益

親会社株主に帰属する
当期純利益

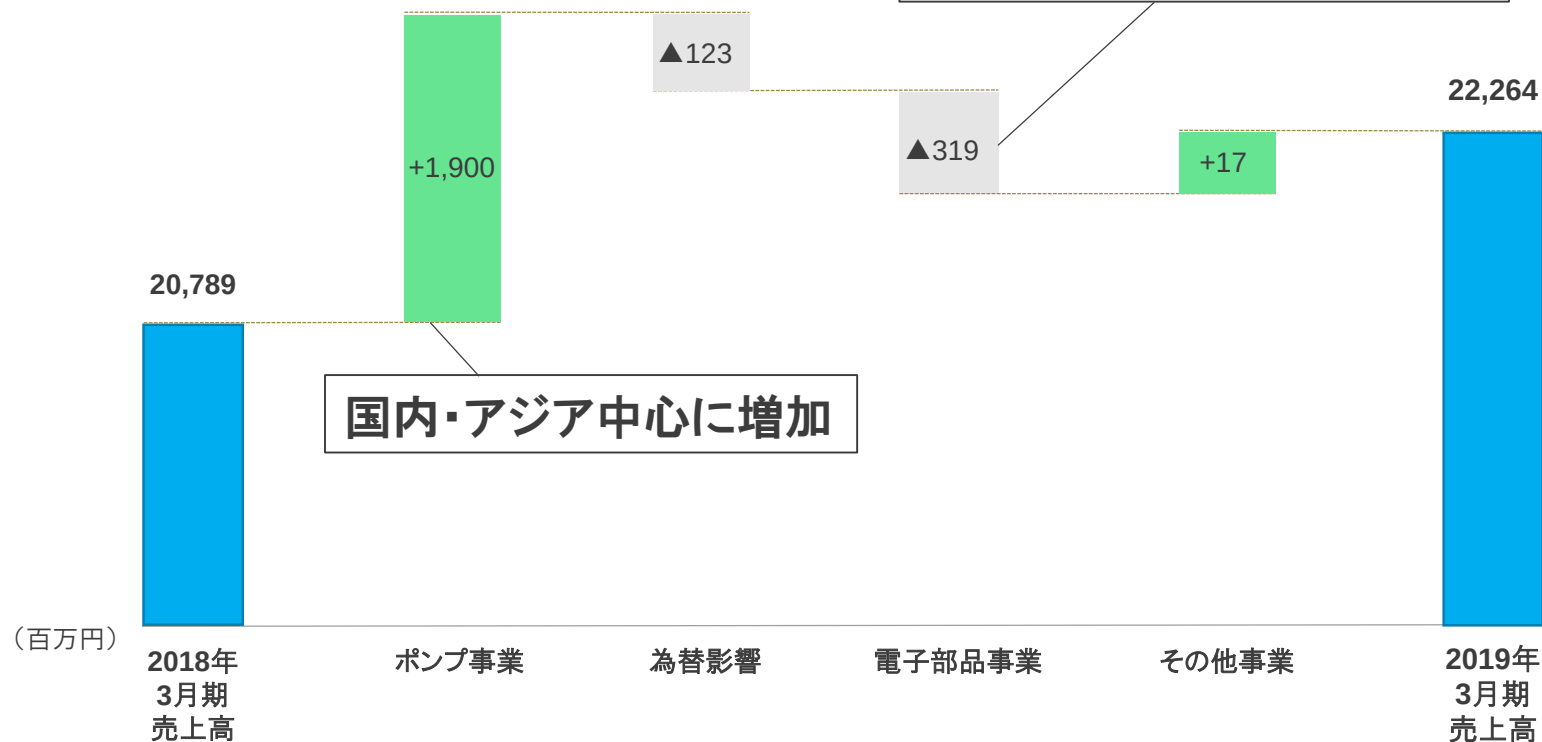
前期比▲32.1%の減益

売上高増減分析



株式会社 帝国電機製作所

期中平均レート推移	2018年3月期	2019年3月期
USドル	112.17円	110.45円
人民元	16.62円	16.45円
ユーロ	126.71円	130.37円

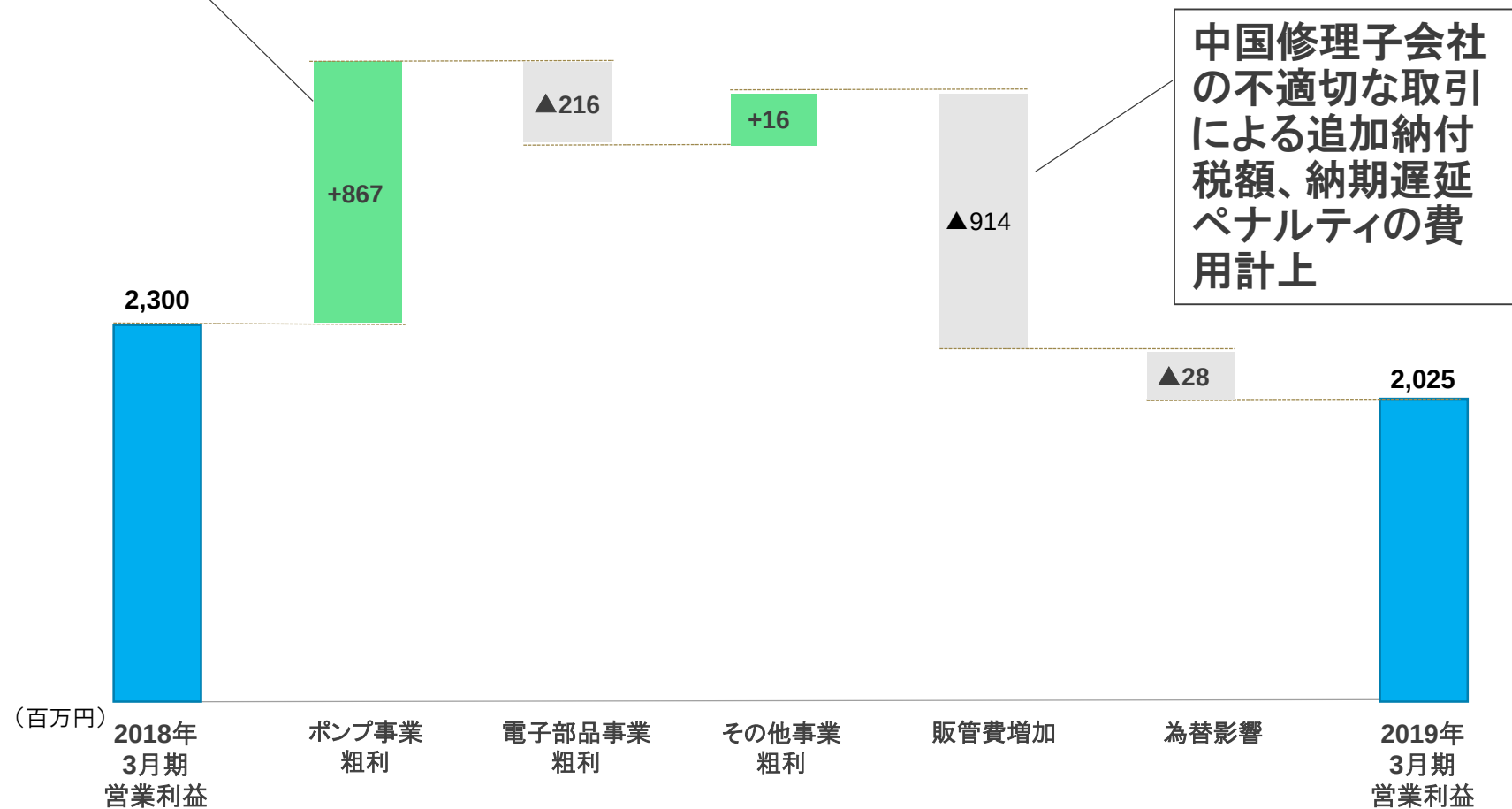


営業利益増減分析



株式会社 帝国電機製作所

売上の増加、粗利率の改善



種類別セグメント(売上高・営業利益)



株式会社 帝国電機製作所

- ポンプ事業・・受注好調により増収であったが、中国修理子会社の不適切な取引による追加納付税額、納期遅延等によるペナルティの費用計上のため減益
- 電子部品事業・・受注減少や人手不足による工場稼働率低下により、減収減益

(百万円)		2018年3月期	2019年3月期	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	18,242	20,019	+1,777	+9.7%
	営業利益 (営業利益率)	2,022 (11.1%)	2,004 (10.0%)	▲17	▲0.9% (▲1.1%)
電子部品事業	売上高	2,057	1,738	▲319	▲15.5%
	営業利益 (営業利益率)	193 (9.4%)	▲64 (－)	▲258	－ (－)
その他	売上高	489	506	+17	+3.5%
	営業利益 (営業利益率)	84 (17.3%)	84 (16.7%)	0	+0.2% (▲0.6%)
合計	売上高	20,789	22,264	+1,475	+7.1
	営業利益 (営業利益率)	2,300 (11.1%)	2,025 (9.1%)	▲275	▲12.0% (▲2.0%)

ポンプ事業 所在地別売上高



株式会社 帝国電機製作所

- 日本・・・設備更新及びメンテナンス需要が堅調なことから増収
- 欧米・・・減収だが受注は回復傾向
- アジア・・・中国・東南アジアを中心とした新規設備投資需要により好調

(百万円)		2018年3月期	2019年3月期	増減	増減率
日本	売上高	6,642	6,995	+353	+5.3%
欧米	売上高	4,972	4,394	▲578	▲11.6%
アジア	売上高	6,627	8,630	+2,002	+30.2%
合計		18,242	20,019	+1,777	+9.7%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間を除く)

●主にケミカル機器用、車両用、メンテナンスが増加

(百万円)	2018年3月期	比率 (%)	2019年3月期	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	9,494	52.0	10,432	52.1	+938	+9.9
冷凍機・空調機器用	2,191	12.0	2,171	10.9	▲20	▲1.0
電力用(車両用)	597	3.3	821	4.1	+223	+37.4
電力用(地上用)	676	3.7	586	2.9	▲90	▲13.3
定量注入機器	309	1.7	382	1.9	+72	+23.3
その他ポンプ	322	1.8	217	1.1	▲104	▲32.6
メンテナンス	4,649	25.5	5,408	27.0	+759	+16.3
合計	18,242	100.0	20,019	100.0	+1,777	+9.7

種類別受注高・受注残高



●ポンプ事業

受注高は日本及び中国を中心としたアジアで主としてケミカル向けが増加
一方で受注増加、仕様高度化に伴い設計・手配に課題が生じている

(百万円)	2018年3月期		2019年3月期		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	19,118	6,987	22,679	9,587	+3,560	+2,600
電子部品事業	2,069	170	1,716	148	▲353	▲21
その他	535	115	498	106	▲37	▲8
合計	21,723	7,273	24,893	9,843	+3,170	+2,570

貸借対照表のポイント



株式会社 帝国電機製作所

- 製品・仕掛品・原材料・貯蔵品・・・ポンプ事業の受注増や仕様の高度化で一部在庫が長期化
- 未払法人税等・未払金・・・中国子会社不適切取引関連の費用計上等による増加

百万円

資産の部	2019年3月期	前期末増減
流動資産	22,391	+1,718
現預金	8,369	▲343
受取手形・売掛金	8,112	+654
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	5,670	+1,256
固定資産	11,919	▲414
有形固定資産	8,931	+57
無形固定資産	798	▲220
資産合計	34,310	+1,304

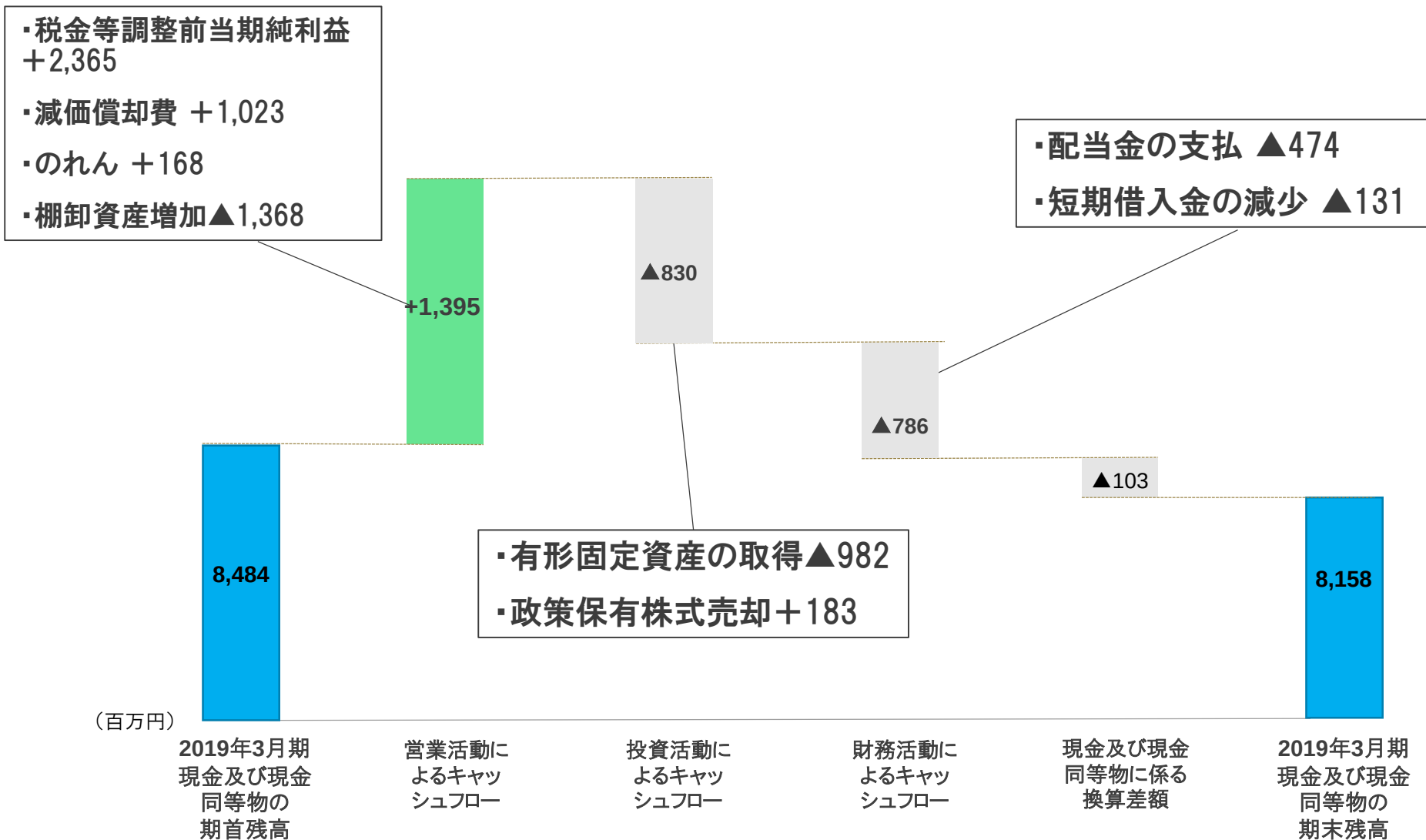
負債の部	2019年3月期	前期末増減
流動負債	8,595	+2,088
支払手形・ 買掛金	2,883	+702
未払法人税等	1,493	+557
未払金	1,293	+481
固定負債	900	▲782
純資産	24,814	▲1
(内自己株式)	(▲809)	(0)
負債・純資産合計	34,310	+1,304

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年3月期については、遡及適用後の数値としています。

キャッシュ・フローの動向



株式会社 帝国電機製作所





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ —————
私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2020年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

業績見通しの前提条件



株式会社 帝国電機製作所

セグメント別	
ポンプ事業	・足許の高水準な受注残高等により増収見込む ・人件費や原材料費の増加見込むが中国子会社関連費用が無くなること等により増益見込み
電子部品事業	EV用部品の受注やベトナム人を中心とした人員確保等により黒字化見込む
計画為替レート	1US \$ =108.0円、1€=125.0円、1元=16.0円、1KRW=0.10円、1INR=1.6円 (前期実績レート:・ 1US \$ =110.5円、1€=130.4円、1元=16.5円、1KRW=0.10円、1INR=1.6円)
地域別	
日本	・ポンプ事業は、海外(アジア)での受注減少見込むが足元の受注残高の高止まり等により増収見込む ・電子部品事業は回復を見込む
欧米	・売上は増収見込み、受注はアメリカで回復傾向 ・シェール関連の需要は2020年以降を予想
アジア	・中国子会社は構造改革の影響等により減収見込み ・韓国、シンガポールも減収見込み

今期計画(業績見通し)



株式会社 帝国電機製作所

- 売上はアジア地域で減収を見込むものの、足許の受注残高の高止まりを受け日本やアメリカが増収見込みであること等から全体として増収を見込む
- 利益は人件費や原材料価格の上昇があるものの、中国子会社関連費用が無くなること等から増益を見込む

(百万円)	2019年3月期 (実績)	構成比 (%)	2020年3月期 (計画)	構成比 (%)	増減	前期比 (%)
売上高	22,264	100	23,340	100	+1,075	+4.8
売上原価	13,135	59.0	14,100	60.4	+964	+7.3
売上総利益	9,129	41.0	9,240	39.6	+110	+1.2
販売費及び一般管理費	7,103	31.9	6,620	28.4	▲483	▲6.8
営業利益	2,025	9.1	2,620	11.2	+594	+29.4
経常利益	2,225	10.0	2,710	11.6	+484	+21.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,016	4.6	1,850	7.9	+833	+82.0

種類別セグメント見通し(売上高・営業利益)



株式会社 帝国電機製作所

- ポンプ事業・高水準の受注残高を背景に増収増益を見込む
- 電子部品事業・EV用部品の受注やベトナム人を中心とした人材確保により黒字化見込み

	(百万円)	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	20,019	20,970	+950	+4.7%
	営業利益 (営業利益率)	2,004 (10.0%)	2,532 (12.1%)	+527	+26.3% (+2.1%)
電子部品事業	売上高	1,738	1,940	+201	+11.6%
	営業利益 (営業利益率)	▲64 (—)	22 (1.1%)	+86	— (—)
その他	売上高	506	430	▲76	▲15.1%
	営業利益 (営業利益率)	84 (16.7%)	66 (15.3%)	▲18	▲22.2% (▲1.4%)
合計	売上高	22,264	23,340	+1,075	+4.8%
	営業利益 (営業利益率)	2,025 (9.1%)	2,620 (11.2%)	+594	+29.4%

ポンプ事業 所在地別売上高見通し



株式会社 帝国電機製作所

- 日本・海外(アジア)向けで若干の受注減少を見込むも足許受注残高の高止まりを受け増収見込み
- 欧米・売上・受注ともに回復傾向
- アジア・中国子会社は構造改革の影響等で減収見込み、韓国、シンガポールも減収見込み

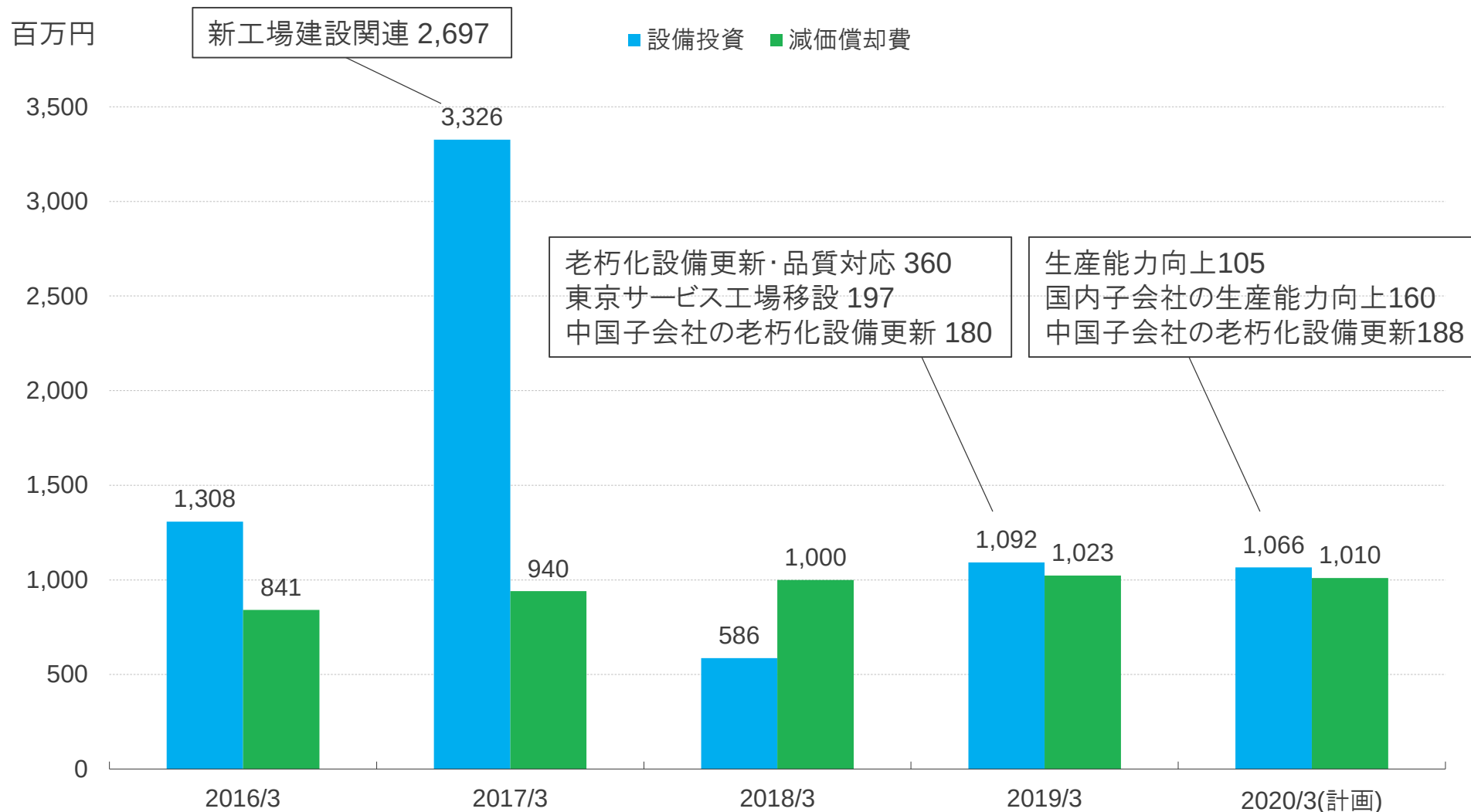
(百万円)		2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)	増減	増減率
日本	売上高	6,995	7,810	+814	+11.6%
欧米	売上高	4,394	5,340	+945	+21.5%
アジア	売上高	8,630	7,820	▲810	▲9.4%
合計	売上高	20,019	20,970	+950	+4.7%

※販売元が基準(外部顧客に対する売上でセグメント間は除く)

設備投資・減価償却費計画



株式会社 帝国電機製作所



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。
拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当 連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得 市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (予定)
年間配当金	20円	24円	30円
配当性向(連結)	26.8%※	46.7%	32.0%

※ 2018年3月期に総額8億円の自己株式取得、総還元性向80.0%



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

当社事業の特徴・強みと戦略



株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

幅広い裾野

- 当社グループの主要顧客である化学メーカーは、エチレン、プロピレンといった基礎化学品を原材料として、合成樹脂や合成繊維、合成ゴム、塗料、接着剤、化粧品など消費者や各種産業(自動車、建設、環境関連)に幅広く提供しており、幅広い裾野を持つ。

世界に広がる市場

- 経済成長率の高い中国、インドを中心とするアジアでの受注増加が見込める他、米国ではシェールガス由来の大型プラントの稼働が開始しており、下流工程での受注獲得が期待できる。

国内市場

- 大規模なPJ案件はないが、海外の安価な製品に対抗すべく高付加価値製品製造の為に小規模な設備案件がある
- 現状のエチレン及び石油化学・化学プラント(関連施設)は老朽化しており、一定の設備更新需要は継続

※参考...世界の石油化学製品の需給動向 (2018年10月経済産業省/世界の石油化学製品の今後の需給動向)

2022年末の世界全体のエチレン需要量合計は177.3百万トン、2016年～2022年の需要の伸びは、年平均3.7%となる見通し。

(百万トン)		世界計	内アジア					内北中南米	その他 (欧州、中東)
				中国	インド	他アジア	日本		
需要	2016年	142.3	67.1	40.0	7.1	12.8	4.7	34.6	31.4
	2022年	177.3	90.3	57.1	9.9	15.8	4.8	40.0	35.2
増加幅	16-22年	35.0	23.2	17.1	2.8	3.0	0.1	5.5	3.8
伸び幅	16-22/年	3.7%	5.1%	6.1%	5.8%	3.3%	0.5%	2.5%	2.6%

日本

- ・国内各社は、アジアでの汎用品設備の立ち上がりやシェール由来化学製品流入に備え、汎用品設備の統廃合や高機能製品へのシフトを進めている。
- ・シェール由来の原料を利用した米国での新增設や現地需要旺盛な東南アジア等、海外での設備投資計画が増加している。

・国内設備投資案件

企業	稼働時期	備考
日本触媒	2019年	機能性化学品増強(兵庫、神奈川)
三菱ケミカル		ポリプロピレン高機能化(千葉)
東レ		ポリオレフィン発泡体増強、アジア圏での自動車内装用途の需要対応(滋賀)
宇部興産	2020年	LiB用セパレータ増強(大阪)
旭化成		LiB用セパレータ増強(滋賀)
丸善石油化学		ナフサクラッカー更新(千葉工場の定修)
出光興産	2021年	ナフサ分解炉刷新、省エネ化(山口)
三井化学		ポリプロピレン新鋭設備の新設。(千葉)

・海外設備投資案件

企業	稼働時期	備考
三菱ケミカル	2019年	PPコンパウンド増強(インド)
旭化成	2020年	LiB用セパレータ増強(米国)
宇部興産		ブタジエンゴム等増強(タイ、マレーシア)
東レ	2020年以降	ABS樹脂増強(マレーシア)
三菱ケミカル	2021年	MMA新設、シェール由来の原料活用(米国)
日本触媒		アクリル酸設備増強(インドネシア)
AGC	2022年	塩化ビニル、苛性ソーダ、塩ビモノマー等増強(インドネシア)
クラレ		ブタジエン等誘導品等の新設(タイ)
住友化学	2023年	ポリプロピレン、MMAモノマー増設(シンガポール)

中国

- ・石油化学製品需要は拡大継続。政府は、安全管理水準の向上や競争力強化のため、小規模設備の削減と7大石化基地への集約を進めており、川上から川下まで一貫した生産体制の構築が進められている。

・設備投資案件

(万吨/年)

企業	稼働時期	備考	エチレン規模
SP Chemicals	2019年	エチレン設備新設。原料は米シェールガスからのエタンを輸入	65
※古雷石化		福建省古雷	120
※遼寧華錦化工集団	2020年	大連長興島	150
※浙江石油化工有限公司		江蘇省連雲港	140
※新浦化学			65
中国中化集団 (Sinochem)		エチレン設備新設	120
※SINOPECと台湾企業の合弁		福建省古雷。第2期ではリファイナリー1,600万吨建設	80
※恒力石化公司	2021年	大連長興島	150
※浙江桐生昆控股集团 有限公司、新疆広匯実 業投資有限公司、 ONEOK等4社			200
※ExxonMobil	2023年	広東省惠州。SABICも同州で投資検討	120
※BASF	2030年	広東省惠州。第1弾は2026年完成	100
※七大石化基地プロジェクト			エチレン生産能力合計 1,310

(出所:経済産業省「世界の石油化学製品の今後の需給動向」、会社HP等)

米国

- 2018年度よりシェール由来のエタンクラッカーが稼働を開始。今後、世界的に増大する石化需要等を背景に更なる設備投資計画が進むことが予想される。

・設備投資案件

(万トン/年)

企業	稼働時期	内容	場所	エチレン規模
Lotte Chemical	2019年	エタンクラッカー新設	レイクチャールズ (ルイジアナ)	100
Dow Chemical	2019年	エタンクラッカー新設	フリーポート (テキサス)	50
Formosa	2019年	エタンクラッカー新設	ポイントコンフォート (テキサス)	120
Sasol	2019年	エタンクラッカー新設	レイクチャールズ (ルイジアナ)	150
信越化学工業	2019年	エタンクラッカー新設	ブラクミン (ルイジアナ)	50
LACC	2020年	Axiall Corporation と Lotte Chemicalの合併。エタンクラッカー新設		115
万華化学	2021年	MDIプラント新設		MDI40
トタル	2021年	エタンクラッカー新設		100
Shell	2022年	エタンクラッカー新設	モナカ (ペンシルバニア)	150
ExxonMobilとSABICの合併	2022年	エチレン生産プラント。千代田化工建設が受注		180
Covestro	2024年	MDIプラント新設		MDI50
Formosa		石化プラント新設計画 第1期:2022~2024年 第2期:2027~2028年	ルイジアナ	1期:120 2期:120
エチレン生産能力合計				1,255

東南アジア・インド

- 石油化学製品の需要は、着実に増加傾向を続けており、東南アジアでは、現地企業の投資計画が進んでいる。またインドでは、外資企業と連携した石化コンプレックス建設計画などが立ち上がっている。

・設備投資案件

(万トン/年)

地域	企業	稼働時期	備考	エチレン規模
タイ	PTTGC/Samsung Engineering	2020年	エチレン設備新設	50
	IRPC(PTTグループ)	2020~2022年	石化拡大策を積極化	54、芳香族100
	SCGchemicals/dow chemical	2021年	オレフィンプラントの増強	170⇒205
マレーシア	Petronas	2020年	RAPIDプロジェクト	110
フィリピン	San Miguel	2021年	石化プラント建設	
	Jgsummit		エチレン16万トン/年の増強等	32⇒48
ベトナム	RON SON REFINARY	2023年	SCGchemicals全額出資、石化コンプレックス建設	100
インドネシア	PT Chandra Asri Petrochemical	2020年	ポリエチレン設備新設。東洋エンジ受注	40
		計画	第2エチレンセンター計画。2020年決定	100
	PT Lotte Chemical Titan	2023年	石化コンプレックス建設。総額35億ドル	100
	台湾中油/Pertamina	2026年	ナフサ分解プラント建設	100
韓国	LG化学	2020年	ナフサ分解プラント増強	115
	S-Oil	2023年	スチームクラッカー建設	15
インド	BASF/アダニ	2022年	石化コンプレックス建設。総額約2,500億円	
	アラムコ	計画	石化コンプレックス建設。総額約44億ドル	

ポンプ事業の戦略とポイント



株式会社 帝国電機製作所

	国内	海外					
		米国	中国	インド	東南アジア	欧州	中東
市場	成熟	成長	成長	開拓	成長	成熟	成長
ポイント	更新需要、高機能化投資	プラント建設、修理工場の優位性	ケミカルリファイナー、帝国ブランド	ケミカルリファイナー	日系企業の進出 帝国ブランド	後発市場	ケミカルリファイナー
製品	ケミカルポンプ 定量ポンプ	ケミカルポンプ	ケミカルポンプ	ケミカルポンプ	ケミカルポンプ 定量ポンプ	ケミカルポンプ	ケミカルポンプ
手段	- 用途の拡大 - 保守・サービスの強化	- 用途の拡大・短納期 - 保守・サービスの強化	- 用途の拡大・短納期 - 保守・サービスの強化	- 認知度向上 - 販売力強化	- 販売力強化 - 保守・サービスの強化	- 認知度向上 - 規格化商品の投入	- 販売力強化 - 保守・サービスの強化

日本	■各コンビナート、工場の更新案件の取込 ■定量ポンプの主力製品化 ■メンテナンス需要の取込
USA	■新規ケミカルプラント建設需要の着実な取込 ■ノックダウン生産拡充により納期短縮、需要取込 ■修理機能拡充による他社との差別化
中国	■新規ケミカルプラント建設需要の着実な取込 ■環境対策関連需要(機関車ポンプ、汚水処理用ポンプ)の取込
インド	■帝国製主要部品とインド製鋳物、消耗品を組合せ現地生産 ■ケミカル市場を開拓
東南アジア	■営業拠点拡充による需要取込 ■修理工場を活かした修理・部品需要取込



持続的企業価値向上へ

足許の課題

納期対応

- 手配の遅れ・・・受注増加、仕様の高度化で当社内の手配が遅れる
- 調達の遅れ・・・受注の増加、仕様の高度化に調達先の量、質(性能)が追いつかない
- 検査の遅れ・・・プロジェクト案件の長時間運転試験により他の製品検査に支障

中国子会社への対応

- コンプライアンス遵守意識の浸透
- 営業部門の挺入れ
- 修理子会社の税務リスクの解消(費用計上済だが未確定)

主な取組み事項

サプライチェーンマネジメント

- 国内子会社の業務再編
- 新規外注先の開拓
- 既存外注先の挺入れ(能力増強支援)

国内工場の整備

- 検査ラインの改善
- 旧工場の整備の準備

手配部門の強化

- 技術、プロジェクト部門の強化

中国子会社の体制整備

- コンプライアンス教育の徹底
- 報酬規定の見直し
- 修理子会社の清算による費用確定
- 中国子会社の支店形式での新規修理拠点立上げ
- 人材の確保

◆3か年中期経営計画

※ 計画は修正後の中期経営計画

(百万円)	2016年 3月期 (実績)	2017年 3月期 (計画)	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (計画)	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 (計画)	2019年 3月期 (実績)
受注高	21,759	19,100	18,146	20,200	21,723	21,600	24,893
売上高	20,748	18,614	19,311	19,652	20,789	20,800	22,264
営業利益	2,168	1,576	1,666	1,839	2,300	2,200	2,025
営業利益率	10.5%	8.5%	8.6%	9.4%	11.1%	10.6%	9.1%

◆中期経営計画の実績

受注・売上は計画を上回ることができたが、営業利益・営業利益率は、中国修理子会社の不適切な取引による追加納付税額、納期遅延等によるペナルティの費用計上等が発生したため未達となった。

◆次期中期経営計画について

足許、国内製造部門のボトルネック解消と大連帝国の体制整備の課題がある為、今期を「次なる成長の事業基盤を整備していく1年」と位置付け上記対応に注力する。

これに伴い次期中期計画については、今期計画を策定するにとどめ、来期以降の計画策定を見送る。



モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心（自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%）

主力の車載向けに一層注力（自動車のシステム化・EV化対応）

- 統合ECU（ワイパーや照明等の機能制御機器）
- SSU（スマートキーレスエントリー）
- モータジェネレータ（車両用発電電動機）
- EVインバータ（ハイブリッド車や電気自動車用のモータ・インバータ）

産業機械向けの拡充（省力化投資拡大による需要増）

- シーケンサ（PLC）用電源基板・表示器



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

環境経営への取り組み

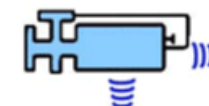


株式会社 帝国電機製作所

主力製品であるキャンドモータポンプ



- ・完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

環境設備の一部としての使用例

- ・自然冷媒のCO₂を使用した冷凍設備
- ・家電、自動車等から回収されたフロン類の分解処理設備
- ・地熱を利用したバイナリー発電設備
- ・工場排水処理設備
- ・脱硫装置

環境製品の製造工程での使用例

- ・太陽光パネル等に使用される多結晶シリコン製造設備
- ・バイオ燃料の製造設備
- ・EV用リチウムイオン電池のセパレータや電極の製造設備



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

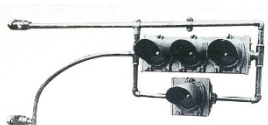
参考資料



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

1991年
初の海外拠
点となる
TEIKOKU
USA INC.
を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポン
プ事業部を買収

2017年
本社工場
リニューアル

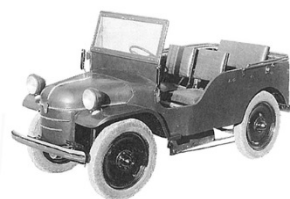
1947年
テイコク製電気
自動車を開発

1960年
キャンドモータ
ポンプの開発
に成功

1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

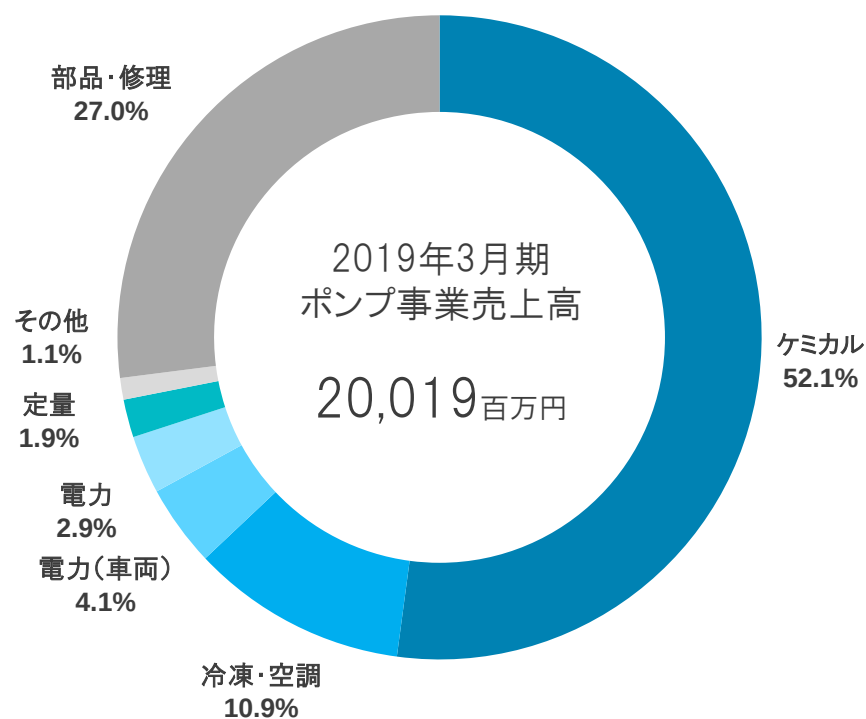
2017年
インドの
HYDRODYNE
TEIKOKU(INDI
A)PVT. LTD. を
子会社化



- みんなで良くなろう
- 誠実に事に当たろう
- 積極的にやろう

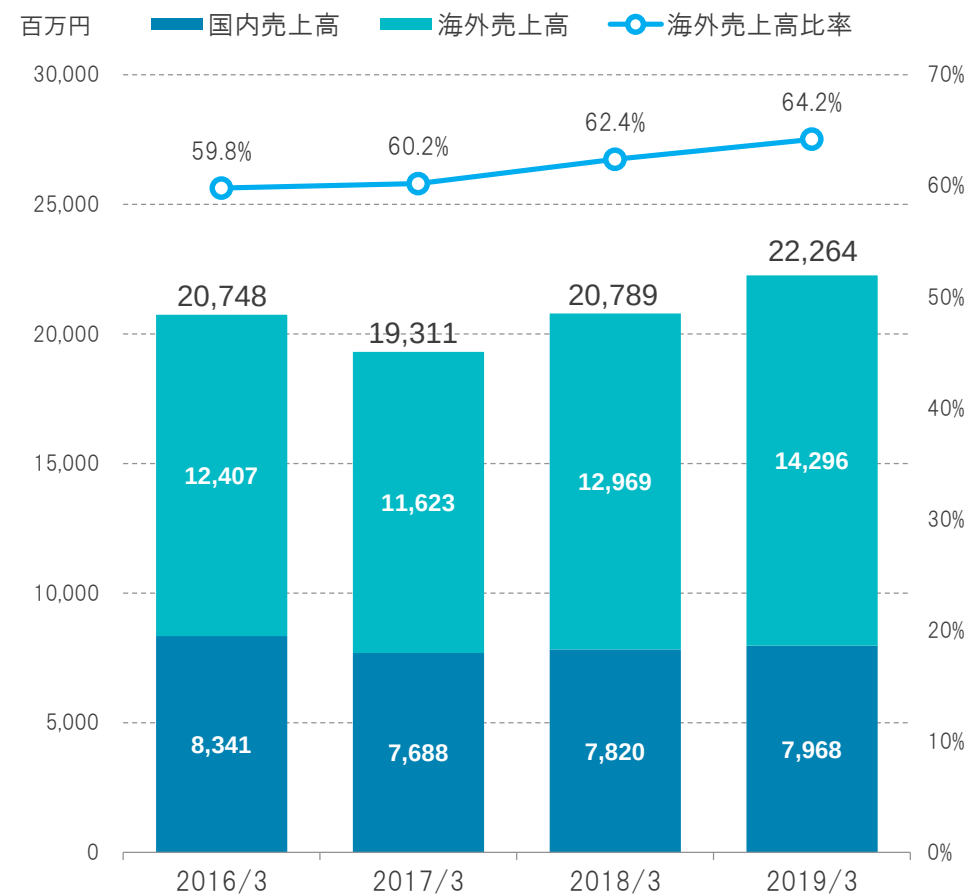


ポンプ用途別売上比率



- 売上高の約90%は、「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」

国内外売上高比率の推移



過去業績の推移



株式会社 帝国電機製作所

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高 (百万円)	22,267	20,748	19,311	20,789	22,264
営業利益 (百万円)	2,470	2,168	1,666	2,300	2,025
営業利益率(%)	11.1	10.5	8.6	11.1	9.1
ROE(%)	9.6	5.9	4.9	6.1	4.1
ROA(%)	10.9	6.5	5.4	7.1	6.6
配当性向(%)	13.4	21.1	26.4	26.8	46.7
受注高 (百万円)	22,609	21,759	18,146	21,723	24,893
受注残高 (百万円)	6,924	7,504	6,339	7,273	9,843

※2017年3月期から在外子会社の収益及び費用の換算方法を変更しております。為替の換算方法について期末レートの使用から期中平均レートの使用に変更しており、2016年3月期については遡及適用後の数値を記載しております。(2015年3月期は従前の期末レート適用)

キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



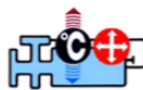
取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



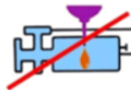
外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



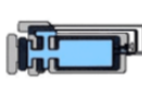
軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらず



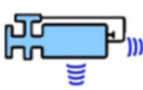
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



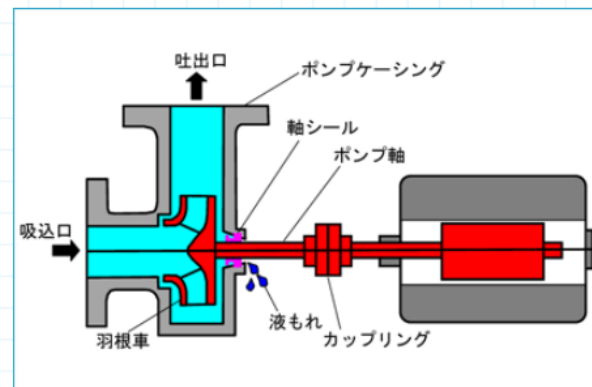
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



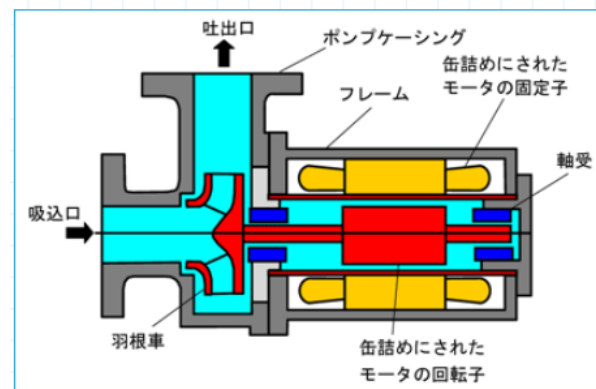
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ

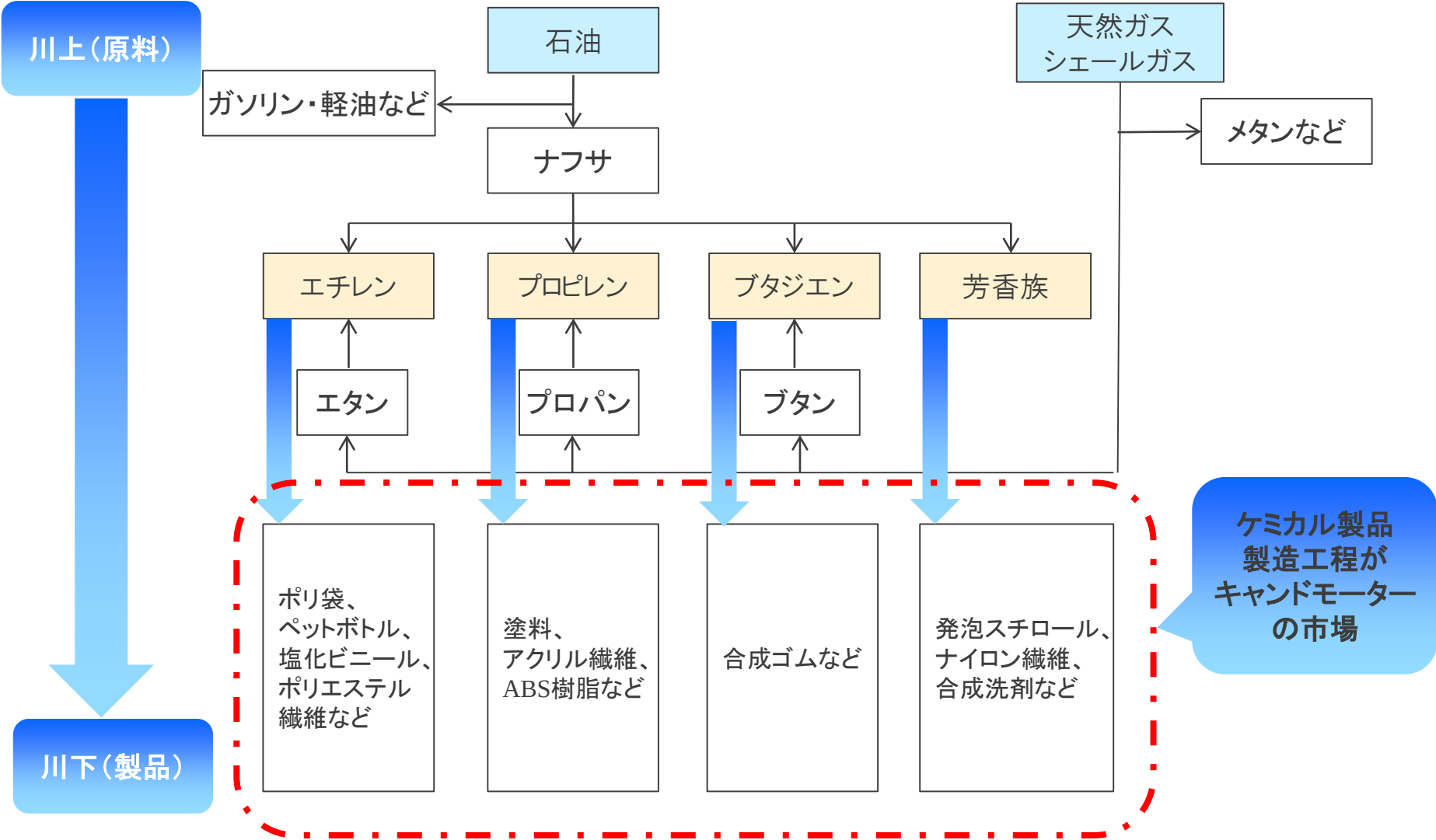


軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



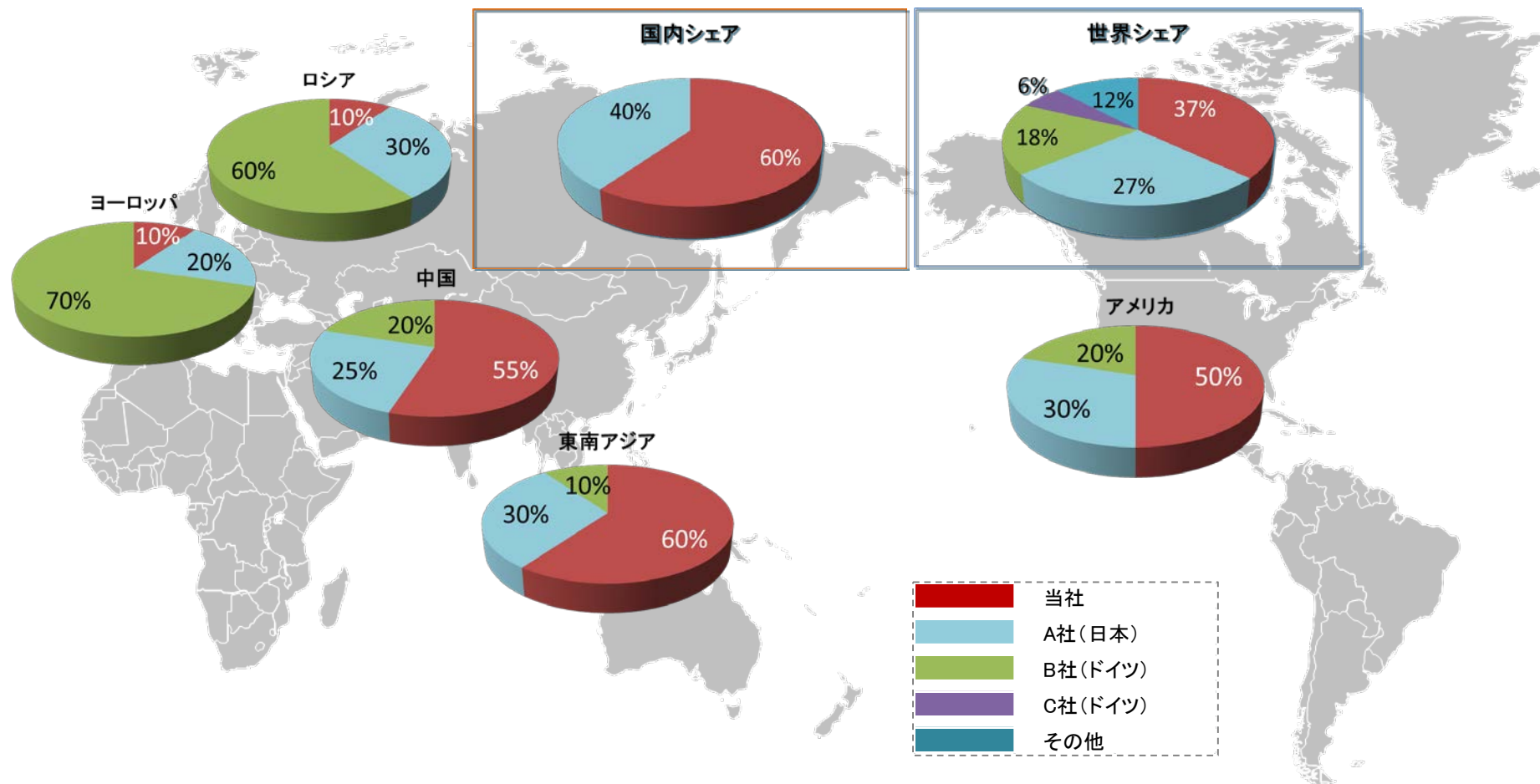
ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。



キャンドモータポンプの市場イメージ



株式会社 帝国電機製作所



注) 上記グラフはキャンドモータポンプに関する主要な非上場外国企業等を含めた当社推計でありますので、お取り扱いにはご注意ください

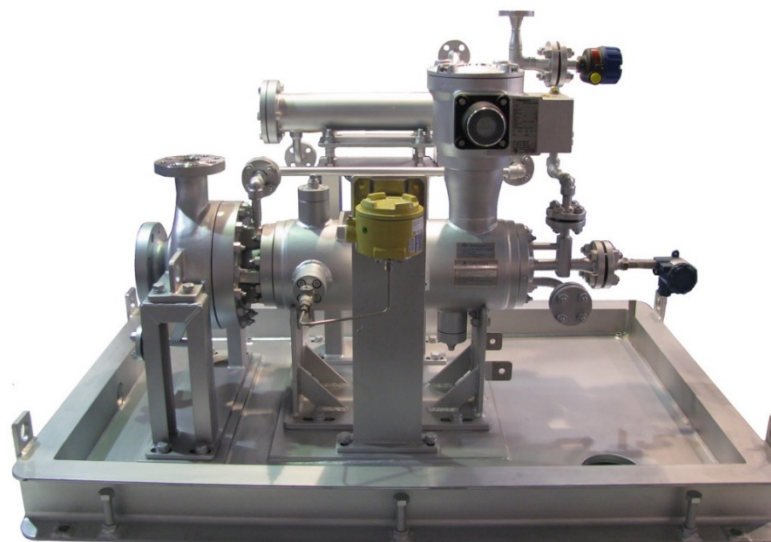
主力製品①: キャンドモータポンプ



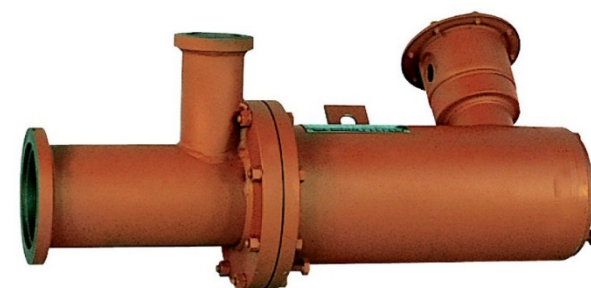
株式会社 帝国電機製作所



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



国際規格API685に準拠したキャンドモータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



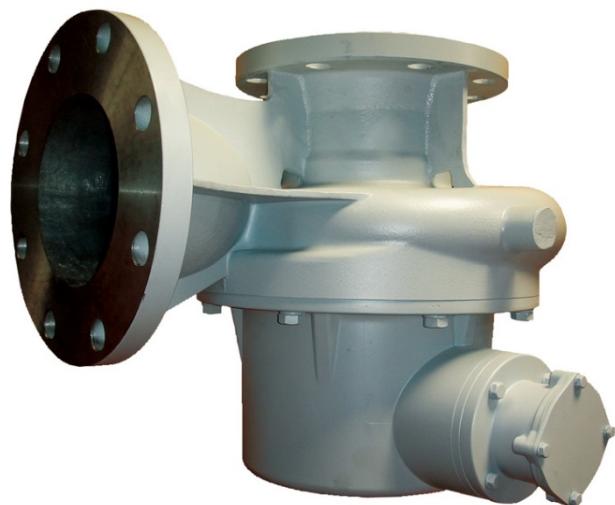
大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンドモータポンプが採用されています。

主力製品②：電動油ポンプ



株式会社 帝国電機製作所

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



主力製品③：定量ポンプ



株式会社 帝国電機製作所

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。
用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。

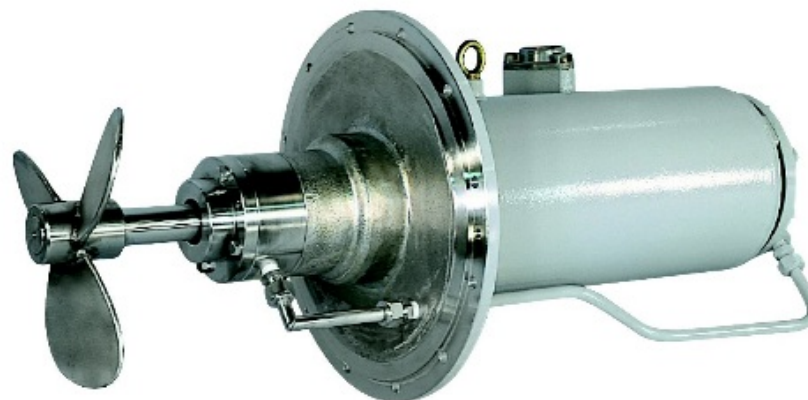


主力製品④：かくはん機



株式会社 帝国電機製作所

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、
石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわないようお願いいたします。